

高齢者交通安全指導員 情報交換会

11月7日（金）滋賀県大津合同庁舎 7階B会議室

平成22年度からクレフィール湖東で実施している「高齢者交通安全指導員養成講座」に参加して下さった方々の情報交換会を開催しました。22名の方が出席して下さいました。

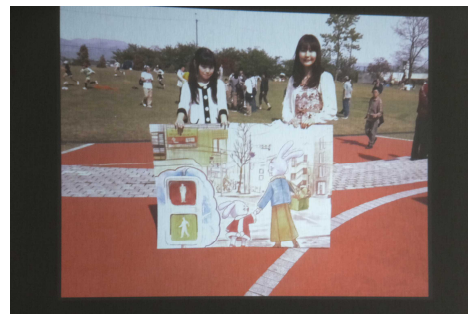
第1部 講義「孫に、近所に、みんなに伝えたい 高齢者交通安全教室」

（講師 一般社団法人「あかるいまちづくりの会」 佐藤様 たわ様）

びわ湖放送のプロデューサーでもある一般社団法人「あかるいまちづくりの会」の佐藤様とたわ様に講義をしていただきました。幼児や障害のある方を中心に交通安全教室を開いておられるなかで高齢者の交通安全教育にもつながる部分が多くあるのではないかとということで、出席者のみなさまのご意見も聞きながら、高齢者の交通安全教室のあり方について考えていきました。

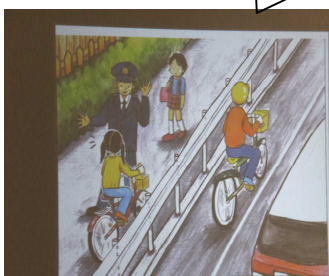


普段行われている交通安全教室では、交通安全の歌を歌ったり、視覚的に訴えるために大きな紙芝居を手作りされたりしています。実際に必要な情報を内容の中に入れて込むことで、教室に参加している人にしっかり伝わるものにされています。場所や相手によっても大きさを変えるなど相手にどう伝えていくかを大事にされているそうです。そのあと、クイズをして認識を深め確認できる場を設定されています。

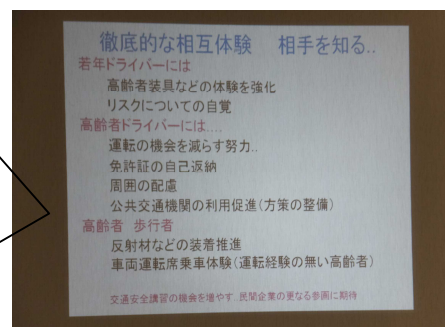


実際に使われている紙芝居をびわ湖放送で活躍されているたわ様が読んでくださいました。さすがプロです。

「自転車に正しくのろう」の紙芝居を読んでいただいています。



どのような交通安全教室を行えば一人でも事故に遭う人を減らすことができるのだろうか。子どもと高齢者の交通安全教室の考え方をミックスすればもっといいアイデアが出てくるのではないかと、今後教材や人の集め方、人数、時間設定についても考えていきたいとおっしゃられていました。



第2部 情報交換（グループ別→発表）

それぞれの所属団体や各地域の老人クラブ等で交通安全指導に携わっておられる皆さんに日頃気になっていることや各自の活動の様子を交流していただきました。どのグループも活発な意見交流ができ、大変有意義な時間になりました。



[各グループで話題になった内容より一部抜粋]

- ・人集めが大変難しい。みなさんが自然と足を運ぶ場所などに交通安全教室を行うよう工夫している。例えばグラウンドゴルフをしながら休憩時間に交通安全教室に取り組んでいる。
- ・二人羽織り啓発・・・二人羽織りをしながら寸劇の中に交通安全に関する内容を組み込んで楽しみながら大事なことを伝えることをされている。面白さの中に学ぶことを入れていくことで高齢者の方にも興味を持ってもらえる。引き付ける工夫をすること。
- ・体験型の交通安全教室を行うことで実際の危険度を実感してもらうことが大事。教習所などと連携して行うことも工夫のひとつである。
- ・カーブミラーの清掃や事故防止のための環境整備が必要である。また、講習会に参加されない方への伝達をどうしていくかが今後の課題である。
- ・教材の提供をしてほしい。どんな教材を準備すればいいかアイデアがほしい。

指導員の皆さんには、今後も引き続き高齢者を対象とした交通安全実地体験教育のサポート役として活躍していただきます。